

「マタニティカフェ・ベビーマッサージ教室」 (市野与進こども園)

◇ 「育む」育児を伝えたい

市野与進こども園では「マタニティカフェ・ベビーマッサージ教室」を行っています。園を利用する保護者や地域の子育て中のお母さんたちに、「育む」育児を伝えたい、子育てに必要な妊娠から出産に至るまでの母親・父親になる心構え、家族の支えなど、胎教から始まる愛着関係の大切さを伝えたいという思いからです。

そのきっかけとなったのは、近年、落ち着きのない子や友達に手を出す子を観察すると、親、特に小さい時の母親との愛着関係が大きく影響しているのではないかと気づかされることがありました。そこで平成 27 (2015) 年「親と子の愛着関係」のための事業として、ベビーマッサージを通してスキンシップの大切さや母親同士の仲間作りをする目的で、無料の「ベビーマッサージ教室」を企画することにしました。

◇ 子育てに悩む母親たち

この教室を始めたところ、母親同士の会話の中に「夜泣きがひどくて」「ミルクの飲みが悪いの」「断乳(卒乳)方法は」、さらに「子どもと二人で何をしたらいいかわからない」など、母親一人で責任を感じ、親としての精神的な不安を訴える母親が多数いました。これらの母親の多くは、インターネットの情報等を鵜呑みにし、わが子の姿を見失い、母親自身に都合の良い答えを求めているといった傾向がみられます。

背景にあるのは、慣れない土地で初めての出産・育児、核家族のため周囲に相談する相手がいない、といった不安感でしょう。インターネット等は便利ですが、手軽に得られた一般論が我が子の問題と同じかどうかの判断は難しいわけです。そこで、気軽に相談できる「人」や「環境」が必要と考え、市内で開業している経験豊富な助産師さんをお願いし、園内で月に 1 度、助産師と当園の保育教諭・栄養士等による相談事業を始めました。

◇ 気軽に相談できる？

気軽に相談できるようにと「マタニティカフェ」という名前を付けて始めたものの、回を重ねるごとに参加者・相談者は少なくなっていました。

助産師と保育教諭にさあ相談をするとなると、気軽に、とはなれないのでしょうか。もっと参加しやすくするにはどうしたらいいか、と悩んだ結果、別々に開催していた「マタニティカフェ」と「ベビーマッサージ教室」を、平成 29 年度から一緒に開催することにしました。教室は月 2 回、ベビーマッサージは月齢に分けた予約性で人数も 1 回 5、6 人程度の参加者です。終了後、気持ちもほぐれ園の手作りおやつを食べながら、日ごろの子育てについて気軽に話ができるように配慮しました。

「子どもが自分からハイハイ・つかまり立ちをしない」「親指をしゃぶっていることが多いが心配はないか」等、些細な悩み事のようなのですが、その場にいる母親同士で悩みを話しながら、みんなが同感してくれているといった安心感が得られるようです。そして助産師さん

には、このような話を聞きながらワンポイントアドバイスを頂くというようにしました。

◇ 小さなニーズへの対応から

子育て経験者には当たり前の小さな悩みでも、ここに来るお母さんたちにとっては、一つ一つ真剣な悩み事がいっぱいです。悩み事をしっかりと受け止め、相談できる場所として利用してもらうことが、親の気持ちにより沿った、地域に根差した子育て事業だと思います。小さな事業ですが、私たちの「地域における公益的な取組」は、まずは保育事業の延長上にある小さなニーズへの対応から、と思っています。 (2018年12月)